



## 各国の状況：女性医師の状況を中心に

コーディネーター 秋山 剛, 上原 久美

近年、各国で女性医師の数が増し、その中で精神科を選択する女性医師も増えています。また、女性特有の問題を抱えた女性患者からの女性医師への期待も高まっています。このような背景の中、本邦でも女性精神科医の数も増加し、出産や育児など女性医師に特有の職場環境に関する課題も増えてきています。そこで、本学会では女性精神科医の状況と課題をシンポジウムに取り上げ、インド、韓国、日本の女性精神科医から各国の女性精神科医の現状について相互理解を進め、今後の課題と取り組みについて国際的視野から検討しました。

最初に、企画の立ち上げから中心的に関わってきたこだまホスピタルの小泉弥生先生が精神科における女性医師の現状を報告しました。小泉先生は精神科臨床医であると同時に日本若手精神科医の会(以下、JYPO)でも中心的に活動されている先生で、今回は世界での女性精神科医の状況、直面している課題について包括的に報告し、日本を始めアジアの国々ではこれらの議論が十分とはいえないと指摘しました。その上で、女性の多い若手の精神科医(以下、若手)を中心にこれらに関する調査をし、今後の課題について明らかにしていきたいと締めくくりました。

次に、Ruksheda Syeda 先生がインドでの女性

精神医療の現状について話しました。Syeda 先生は Trellis Family Center で母子医療を中心に診療なさる傍ら、メディアを通じた精神医療の啓発など多岐にわたって活動しています。インドは言語、宗教、カーストなど多様な文化背景をもつ人々が共に生活しているため、精神科治療には宗教的な差異や戒律、社会背景を十分理解しなくてはなりません。このような中で同じ宗派の女性医師を希望する女性患者も増えています。しかし一方で、女性が家事・育児のほとんどを担っているインドでは女性医師を取り巻く環境は決してやさしいものではありません。家事・育児と医業の両立のために、環境整備は今後の課題であると話しました。

3人目の Ha Kyoung Kim 先生は韓国で行った意識調査を元に、若手における女性精神科医の特徴を報告してくださいました。Kim 先生は Ewha Women's University ご出身で、インターン1年、精神科専門研修4年間を経て Psycho-Oncology Clinic, National Cancer Center, Kyonggi, Korea で精神科医として勤務し始めた先生です。韓国では、精神科を選択する女性が群を抜いて増えているようですが、Kim 先生はその背景に精神科特有の勤務形態や男女平等な環境が関与していることを指摘しました。しかし、多くの

家庭で女性が家事を担っており、家庭と仕事のバランスをとることが課題であると示しました。

4番目の発表者は東北大学病院精神科の菊地紗耶先生です。菊地先生は若手精神科臨床医の立場で、JYPOを通して実施した若手精神科医の意識調査を元に男女の比較を行いました。勤務状況や勤務に対する意識の違いだけでなく、家事・育児に対する意識の特徴を比較し提示し、今後女性医師が活躍しやすい職場環境の整備が必要であると共に、女性の意識や需要の把握が必要であると締

めくりました。

発表後にはフロアを交えて女性が直面しやすい問題についてさらに意見交換し、今後の解決方法について、医師側、制度側などの視点から討論しました。今回、国際シンポジウムでアジア共通の課題について討論することができ大変有意義な会となりました。このように直面する問題を各国の視点から検討するという試みを今後も続け、相互に学びあい、よりよい精神医療の発展に結び付けられれば幸いです。